税金で繋がる想い

江戸川区立東葛西中学校３年　山﨑　香瑠

部活で引退してからの私の趣味はランニングである。休日の朝、家の周辺を走っていると気づくことがある。まず驚いたのは公園の多さである。街の至る所に公園がある。そしてどの公園もゴミが無く整備されており、子供達が遊ぶ声が聞こえてくる。木陰で涼まれている高齢者の姿も多く見かけるし、高齢の市民ランナーの方とすれ違うこともよくある。皆さんとても楽しそうだ。家に帰り、母に話してみると、母は嬉しそうに、それがこの街の魅力なのだと教えてくれた。そこで色々と母に尋ねてみると、私の住む江戸川区は子育て支援や高齢者の福祉に力を入れているということ、そして私も幼いころ、それらの制度の恩恵を受けていたということを知った。第一子である私が生まれた後、母はよく区の運営する「子育て広場」という施設に行っていたそうだ。そこでは乳幼児が遊具で遊べるだけでなく、育児に関する相談や母親間での交流ができる場が設けられている。他にも、江戸川区には高校生以下の医療費を助成してくれる制度がある。そのおかげで私達は病院に行き、治療を受けられている。さらに、私が小学生の時、放課後によく友達と遊んだ「なごみの家」という施設も実は区の高齢者福祉の取り組みの一つだと知った。なごみの家は、玩具やボードゲームがあり、子供達が遊べる広場になっているのだが、そちらのスタッフは皆お年寄りの方々だった。このように支援の充実した江戸川区だが、その費用はいったいどこが負担しているのか気になり、区のホームページを読んでみた。すると、費用のほとんどは国や都からの補助、すなわち私達の納めた税金で払われていると分かった。最近消費税が十パーセントに引き上げられ、正直私は嫌だと思っていた。物価が上昇しているのに税金の影響でさらに値段が高くなってしまう。その思いは国民の誰もが抱えていて、政府は今減税のために様々な取り組みを行っていると度々報道されている。確かに減税を行えば、多くの国民は喜ぶだろうし、消費が活発になれば経済も回る。しかし税金が少なくなれば子供の遊び場づくりも、高齢者の支援も、私達が生きるために欠かせない公共サービスも十分にできなくなってしまう。税金は今の私達から、将来を生きる私たち、そして次の世代の子供達への贈り物であると私は考える。中学生の私が払う消費税は僅かな金額だけれども、多くの人でその僅かなお金を集めて大きなお金にすれば、きっとこの国に住む、誰かの暮らしのために役立てられる税金は負担ではなく、自分のため、誰かのための贈り物だ。私はあと半年で義務教育を終える。私が今まで無償で教育を受けられてきたのも税金のおかげだ。私が大人になる頃には税金はもっと高くなっているかもしれない。たとえそうであっても、税金を納めて、私がこれまでに多くの人に受けた恩を次の世代に恩返ししようと思う。